

1. 評価報告概要表

【評価実施概要】

事業所番号	2472400262
法人名	医療法人 緑の風
事業所名	くつろぎの家
所在地 (電話番号)	津市河芸町東千里13-2 (電話) 059-245-6065
評価機関名	三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	平成20年7月18日(金)

【情報提供票より】(H20年6月30日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成12年5月23日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9人
職員数	10人	常勤6人, 非常勤4人, 常勤換算	7.5人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨造り		
	1階建ての	階 ~	1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	70,000 円	その他の経費(月額)	20,000 円 ~	
敷金	有(円) 無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1,500円			

(4) 利用者の概要(6月30日現在)

利用者人数	9名	男性	2名	女性	7名	
要介護1	1名	要介護2	2名			
要介護3	6名	要介護4	0名			
要介護5	0名	要支援2	0名			
年齢	平均	85.8歳	最低	78歳	最高	91歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	有床診療所 千里クリニック、 大杉歯科医院
---------	-----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

代表が医師であり、同敷地内にクリニック、介護老人保健施設等がある。管理者は、グループホームの立ち上げから関わり、入居している利用者とは信頼関係を築いている。また管理者の愛犬スイートも毎日出勤して癒しに一役かっている。今春から重度化対応・終末期ケア対応に関しての「医療対応確認票」を作成し医療機関と連携して家族・利用者の望む形の支援もはじめています。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目 ①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の課題の一つに、地域とのつき合いがあったが地域の行事にも参加したり、散歩等では声をかけていただいたりして、外出の機会を捉えて交流をしている。運営推進会議、事業所独自の災害対策の実地訓練等は前向きに検討をしている。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>新人職員も含め全職員が自己評価票の項目に取り組み、新たな気づきや、改善点に繋げている。評価の重要性を再確認する良い機会と捉えている。</p>
	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>管理者は運営推進会議の重要性を理解しつつも現時点では開催できていない。完全な形の会議でなくても良しとし、とりあえず揃ったメンバーだけでの開催を試みてほしい。参加できなかった委員にも結果報告し次回開催に参加されることに期待したい。</p>
重点項目 ②	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>広報誌「のんびりと」を年4回(四季報)発行している。家族の面会時に渡している。また、電話での連絡も随時行われている。家族会もありその場でも家族等から意見、要望がでるが、定例会議で取り上げたりして解決している。現時点では苦情等は出ていない。</p>
重点項目 ③	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>自治会に入っており、町内の催し物(文化際の生け花展等)があると出かけてそこでも地域の方達との交流を図っている。また、法人内で納涼会もあり集まった方達と一緒に楽しいひと時を過ごしている。中学生のボランティアの受け入れもしている。</p>
重点項目 ④	

2. 評価報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念として、利用者や地域との関わりに「笑顔と優しい気持ち・声かけ」を掲げ、地域に溶け込もうと日々試行錯誤しながら取り組んでいる。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	全職員に朝の申し送りや毎月のプラン会議・ミーティングの中で話し合っている。また、日々の業務の中でも自然に口に出し合っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に入っており、情報を得て例えば週2回の朝市、町内の文化祭、生け花展等に利用者と一緒にいき、そこでも地域の方とコミュニケーションを図っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	新人職員も含め全員が自己評価に取り組んでいる。職員は其中で新たな気づきや改善に繋がると、評価の重要性を再認識している。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の必要性は理解しつつも、現時点では開催されていない。	○	管理者は参加の声かけにも例年苦慮している。運営者の理解の下、最初は完全な形での会議でなくても良しとし、職種にこだわらず集まっていた頂き、開催を試みてほしい。また、話し合われた内容を不参加の委員に報告して次回参加に繋がるような会議を期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域包括支援センターを尋ねて相談したり、認定更新の調査の立会い等、津市社会福祉協議会事業との関わりもある。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	年4回(四季報)、「のんびりと」を発行し家族等に見てもらっている。利用料が現金払いという事もあり、面会時にも日頃の利用者の状況を知らせている。家族からは、暮らしぶりについて随時の報告があると喜ばれている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会があり、その場でもいろいろな話し合いがある。苦情は出ていないが、意見や要望は毎月の会議にかけたりして結果を家族等に伝えている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	この一年で数人のスタッフの交代があったが、その都度、利用者の表情、行動に注視して不安が生じないようにしている。		
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月開催されるグループホーム連絡協議会に職員が交代で参加できるようにしている。それ以外にも職員の希望を聞いて他の研修にも参加ができるように前向きに検討している。法人内研修も3ヶ月毎の開催があり職員のスキルアップを図っている。研修内容を他職員にも伝達し情報共有をしている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会で交流した同業者と情報交換している。毎月のミーティングでも他事業所での活動を報告したりしてケアの質の向上を図っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めよう家族等と相談しながら工夫している	事前に見学がある。情報収集の中で生活暦を知った上で関わり、不安や混乱が生じないようにしている。また、管理者が自宅に行き、入居時の持込品選定に馴染みのものを取り入れてもらいスムーズに入居に結びつくようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員との会話の中で、利用者自身の嫁・姑、配偶者との関わり方を、生き生きとした表情で話されることがある。職員は勉強になりましたと利用者に話す等の場面があり日頃からの信頼関係が見られる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	意思表示の困難な方もある為、表情から快、不快を察知し“快”にするには何をどうすべきか、生活暦も確認しながらできる限り利用者の思いに応えようと工夫している。		
○チームでつくる利用者本位の介護計画					
15	36	本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	月1回のミーティング以外に、ケアプラン会議があり、面会時等で家族から聞き取った事や要望を報告したり、職員の気づきや状況を出し合って介護計画の作成に繋げている。		
○現状に即した介護計画の見直し					
16	37	介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的に見直しをしている。特別に変化が生じた場合には、まずノートに記録しケアの見直しを即実行プランを変更している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人の希望により自宅の様子を見に行ったり、希望する買い物、外出、外食、理美容院、通院等の支援をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	運営者(代表)が医師であり主治医となっている。かかりつけ医への受診は歯科、皮膚科、眼科耳鼻科等があるが、家族が行けない時は事業所側で支援をしている。また主治医の往診も週1回あり利用者の健康管理もされている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	今春から重度化対応・終末期ケアに対応する、医療対応確認票を作成している。ターミナルを迎えられた方を以前にも体験している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	それぞれの方々の羞恥心に配慮しながら、職員の声かけも自然体で行われている。個人情報の利用目的の掲示もあり、注意しながらの情報提供である。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	体調がすぐれない方には朝食時間を遅らせる等対応している。また、利用者の居室で食事される方もある等、利用者に合わせて柔軟に対応している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	職員も一緒に同じ食事をとっている。3食とも利用者と一緒に準備、味付けした手づくりメニューである。食事風景も会話があり和気あいあいとした家庭的団欒がある。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	曜日等の決まりはない。午後からの入浴希望者が多く、毎日入られる方もある。入浴を好まない方には清拭で対応して体をさっぱりしていただいている。		
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	野菜を収穫した時の楽しみ、料理の味付け、生け花でリビングの雰囲気を明るくしたり、それぞれの方の力を引き出そうと取り組んでいる。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	30分程かけて周辺を散歩したり、法人内の喫茶室に出かけたり、ゴミ出しや外食に行ったり等、できるだけ外にでる機会をつくっている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	併設の施設に行こうとして出られる方がみえる。午後の入浴時間帯と他の利用者の関わりが同時になる場合があり、どうしても一時的に施錠している。利用者全員の家族には同意を得ている。最近になって落ち着かれてきているため、施錠が当然にならないように努めている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	法人内で年1回、消防訓練をして管理者は参加しているが、事業所独自では職員間での話し合いだけで実際の訓練等は行われていない。	○	災害対策マニュアルはあるが、火災、地震等の実地訓練を継続して行う事で、緊急時に備えられることを期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎月1日、16日に体重を記録して健康状態等を把握している。栄養のバランスは併設の管理栄養士に見てもらっている。水分摂取については3度の食事時、入浴後、おやつ時など随時に飲まれている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用部分は明るく窓も大きく、自然の風が通りぬけ、臭いの淀みはない。レースから差し込む光も丁度いい。利用者の活けた花もあり家庭的な雰囲気がある。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	テレビ、位牌、写真、椅子等、それぞれ思い思いの馴染みの品が持ち込まれており、利用者の我が家となり安心して過ごされている。		